



①発信する ②追究する ③粘り強く ④つながる ⑤思いや願いを実現しようとする ⑥課題解決する

地域とともに、命を守る力を育てる

校長 坂本陽子

東日本大震災から10年以上が経ちましたが、私たちの記憶には今も深く刻まれています。近年では、気候変動の影響もあり、豪雨や猛暑など災害はいつどこで起きてもおかしくない状況です。災害は決して「人ごと」ではありません。

本校では、「防災の日」を前にした8月29日に総合防災訓練を行いました。防災の日が、9月1日に制定された大きな理由は、今からおよそ100年前1923年9月1日に起きた関東大震災に由来しています。いつ発生するか分からない大規模地震に備え、授業中に震度5強以上の大地震を想定して訓練を行いました。まずは、地震を知らせるサイレンが鳴り机の下に身を隠して自分自身の身を守ります。放送機器が使えない想定をしているので、避難経路の確認や怪我の状況等の把握、その後の1次避難についての指示等は職員が分担をして各フロアに伝達をしました。

校庭への1次避難は、厳しい暑さの中でしたができるだけ短時間で終わるようにして行いました。子どもたちも月に1度ある避難訓練の積み重ねの成果もあり、「お・か・し・も」の約束を守り、真剣な態度で訓練に参加していました。その後、校舎内の安全確認ができたということで2次避難場所である教室に移動し、ふり返りを行って訓練を終了しました。

また、4年生の社会科では、「自然災害から人々を守る活動」という単元を通じて、防災について多角的に学びます。過去の自然災害や地域の防災活動について調べ、災害から人を守るための取り組みを理解すること、地域の関係機関（区役所、消防署、自治会等）の役割を知ること、自分たちが地域社会の一員として、どのように協力できるかなどが学習のねらいです。この学習は、地域の防災活動と自分たちの生活を結び付けて考える実践的な学びです。

さらに、11月16日には、初音が丘小学校地域防災拠点訓練が実施される予定です。各地域からの代表者が小学校へ避難をした後、受付（本部）の設置の流れ、直結式トイレの組み立て、発電機の準備、組み立て、有事が発生した際の防犯について等、説明を聞いたり、体験したりすることで、地域防災の体制や役割を知る機会になります。

防災教育は、未来を生きる子どもたちにどんな力を育むのでしょうか。様々考えられると思います。

- 自分の命を守る行動を考える力
- 身近な危険を予測する力
- 情報を得て活用する力
- 近隣の人たちと協力しあう力
- 防災を自分事として考える力

災害時には、訓練や知識通りの対応ができないこともあります。「今、自分はどうすれば安全か?」「命を守る行動は?」と考えることは、正解が一つではない場面に対応する場合に重要になります。自分なりに考え、家族と共有することの積み重ねが、命を守る確かな力となります。

今後とも、学校、家庭、地域が手を携え、子ども達が安心して成長できる環境を共につくっていきたく願っています。